

國朝大業廣記

百四

和書門類			
二八四九五號	九四函	一五〇冊	

內閣文庫		和書類
二八四九五號	一五〇冊	九四函

內閣文庫	
番號	和 28495
冊數	150 (148)
函號	149109



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



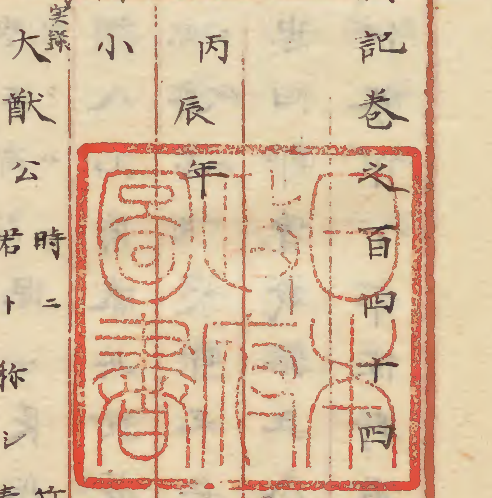
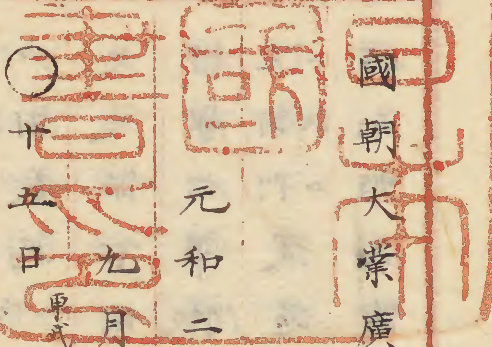
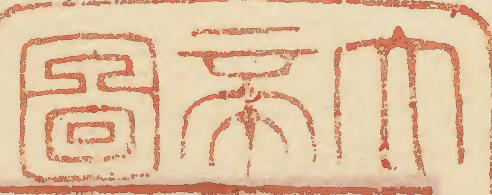
國朝大業廣記

百四十四

國朝大業廣記

大業廣記卷之百四十四

内務省



國朝大業廣記卷

之百四十四

元和二年丙辰

十月五日

大猷公

時二

若十代

傳臣

酒井備後

守忠利青山伯耆守忠俊内藤若狹守清次ヲ附属シ玉ヲ且

ツ富士卷狩十番切坐席勤衛トメ書院番花畑番ノ内ヨリ

撰テ六十一人ノ附属レ玉ニ四組トシ玉ニテ伴頭一人宛

ス四組共ニ番頭一人宛テハ四人ノ筆頭ヲ定ム一番ノ伴頭ハ松

平清三郎後自杖ノ跡七郎二番ハ戸塚作右衛門病死ノ後跡

郎七番ハ松平友之助四番ハ鶴殿新三郎ト云々勤衛ノ士

所謂中根傳七郎後大隅守稻垣藤七郎後若狹守神尾内記

後備前守井上清兵衛後苑守秋山三四郎後修理亮餘江

セス原

内務省

中葉廣記

國朝大葉廣記卷之百四十四

元和二年丙辰年
九月小
大猷公時二若一稱シ奉ル代ノ傳臣トメ酒井備後

守忠利青山伯耆守忠俊内藤若狹守清次ヲ附属シ玉フ且ツ富士卷狩十番切坐席勤衛トメ書院番化畑番ノ内ヨリ撰テ六十一人ノ附属レ玉ニ四組トシ玉ニテ伴頭一人宛

也四組此共二番頭トテ八四人ノ筆頭ヲ定一番ノ伴頭ハ松平清三郎後自後稻垣藤七郎跡二番ハ戸塚作右衛門病死ノ後跡郎三番ハ松平友之助四番ハ鶴殿新三郎ト云々勤衛ノ士河謂中根傳七郎後大隅守稻垣藤七郎後若狹守神尾内記後備前守井上清兵衛後筑後守秋山三四郎後修理亮鯨江

勤衛ノ士

中葉廣記

百四十四

甚九郎 後宮城二改ノ 酒井五郎助 後因備守宮崎左馬助備
 前守二 三枝宗四郎 後土佐守松平清三郎戸塚作右衛門松
 平友之助 後新改五左衛門 鷄殿新三郎植村權兵衛高田藤五郎
 後庄改右衛門 安藤傳十郎玉虫助大夫牧野太兵衛 後助兵衛内
 藤久五郎倉橋三五郎 後長右衛門改 田村助太郎土屋左門 後忠
 二改 中野吉兵衛水野傳藏浪邊兵九郎 後吉右衛門改 加藤助右
 衛門門奈傳八郎 後助左衛門改 伊達庄兵衛小川惣三郎 後惣右
 改永田四郎三郎松平米女 後九左衛門改 戸田藤五郎戸田又久
 戸田数馬 後惣左衛門改 保々長兵衛河田助兵衛管谷左衛門
 大久保右衛門八山角藤兵衛管沼作十郎市岡太左衛門管
 沼惣六郎 後改郎右衛門 大野平兵衛三枝新九郎多田三吉 後新
 左衛門 渡邊忠四郎曾我弥五八郎本多山三郎 後四郎兵衛 早
 川五郎兵衛伊勢作十郎佐野右衛門八 後改外記 芝山甚太郎

内形

梶川小十郎 後半左衛門改 坪内久太郎成瀬長次郎 後七左衛門改 河
 村善七郎 後善左衛門改 小澤權之丞渥美九郎兵衛 後久兵衛改 浅
 羽孫三郎朝比奈弥一郎遠山久四郎 後清右衛門改 右番頭之無
 少伴頭共二総云六十一人 富士卷狩曾我十番切ノ繪坐席
ノ御番衆
 十九日 松井与兵衛宗直享年七十九歳ニノ卒ス
 廿八日 参州以来ノ烈士小栗又一忠政享年六十二歳
 ニノ卒ス
 廿九日 老臣ヨリ掟ヲ下ス

定

一喧嘩口論有之時至其場一切不可出合事
 一科人斬罪之刺申付者之外至其場不可出向事
 一町中火事出来之節至下々迄一切不可馳集

均務

但於奉公人之所者其親子兄弟縁者不苦也其外
雖為知音之好不可出合事

右條々堅可相守之若於有違背之輩者忍可處嚴科者也

元和二年辰九月廿九日東武實錄三月二十日アリ

安藤對馬守

土井大炊頭

酒井備後守

本多上野介

松倉伊賀守

○山田清大夫重次門奈助左衛門宗勝伏見ノ町司ト成ル

天和七年酉ヨリ此兩
人駿府ノ町司ト成ル

補ニ是月天海僧正京師ヨリ江戸ニ歸リ神君ノ御神

號ノ事傳奏ヲ以テ獻聞ニ達スルノ所

勅許アルヘキノ旨ヲ告シ上ル

同月十月大

補ニ東武實錄老中ヨリ令セラル、ノ制法左ノ如レ

沙汰高條々

一々ハコ作モノ町人ハ五十日百姓ハ三十日自分ノ兵

糧ニテ籠合タルヘキ事

一同賣候者同前ノ事

一同作候在所ハ為過料百姓一人付テ鳥目百文宛可出

事

一同作候所々代官為過錢五貫文出スヘキ事

一通橋ノ儀如前々可申付之若令油断意下所於有之者其

所ノ代官為過料五貫文可出事

右ノ條々堅所被仰出也仍下知如件

元和二年辰十月三日

安藤對馬守

土井大炊頭

酒井備後守

本多上野介

板倉伊賀守

○六日同上清水平左衛門正親卒ス嗣子恒豊家督ヲ継テ又

平左衛門ト称シ後年大御番組頭トナル此恒豊カ祖父山

名右衛門佐堯熙ハ秀頼ニ任ハ二千石ヲ領シ大坂落去己

後其子与五郎堯政ト共ニ一族禪高カ許ニ蟄居ス恒豊ハ

子也清水ハ一族ニ○十五日其家ヲ相族ス上総介忠輝朝臣没収ノ地ヲ諸將ニ宛行ル

越後高田城十万石 酒井左衛門尉家次

舊八上州高崎七万石 堀丹後守直寄

同長岡城八万石

同三條城四万三千石 市橋下總守長勝

同長嶺五万石新ニ築ク牧野駿河守忠成

同三條城四万三千石 市橋下總守長勝

同州刈羽二万石 稻垣平右衛門後櫻津守ニ任ス

信州松代城十二万石 松平伊豫守忠昌

同飯山城三万石御咄ノ衆佐久間備前守安政

同長沼城一万三千石 同大膳亮安次勝ハ之ニ

播州明石城十万石 小笠原右近大夫忠真

日州肥田六万石 石川主殿頭忠總

舊八濃州大垣五万石

舊八信州松本八万石

石川主殿頭忠總

舊八濃州大垣五万石

舊八信州松本八万石

石川主殿頭忠總

舊八濃州大垣五万石

舊八信州松本八万石

石川主殿頭忠總

舊八濃州大垣五万石

舊八信州松本八万石

石川主殿頭忠總

舊八濃州大垣五万石

濃州大板城五万石 松平甲斐守忠良

舊八下總関宿四万石

上州高崎城五万石 松平丹波守康長

舊八常州笠間三万石

肥前島原六万石 松倉豊後守重政

舊八和州五條四万五千石

下總河内領

三万石 松平越中守定綱

常陸下間庄

舊八野州山川一万五千石

○廿五日 東武実録 織田辰之助信州従五位下ニ叙シ刑部大輔ニ

任ス是ハ改上野介入道老犬カ次男也

○廿六日 天海僧正 御遺命ノ由ヲ称シ久能山ノ神

靈ヲ野州日光山ニ遷シ祭ラレハレトテ藤堂和泉守高虎

本多上野介正純ヲ奉行トシ其副使ニ八日根野織部正吉

明本多藤四郎正盛山代宮内少輔忠久摺屋新三郎 命ヲ

蒙リ御手傳トシ日光近境ノ大小名人夫ヲ率テ登山ス

補ニ奥平九八郎 後关作守ニ任シ忠昌ト号小笠原左衛

門佐政信 河下総国古松平丹波守康長 常陸国笠水谷伊勢

守勝隆 常陸国下此外那須皆川ノ領主等人夫ヲ率テ登

山セリ是皆日光山近境ノ領主タルニ依テ 命セラレ

者也

地形ノ繩張等天海之ヲ沙汰シ来四月以前 御廟神祠悉

ク造畢スヘキ 命アリ庶民ハ招スメ雲ノ如ニ集リ工匠

八霞ノ如ニ来リ昼夜ヲ分メ是ヲ経リ是ヲ管ム阿倍四

郎五郎正之ハ材木ヲ河陸共ニ運送スルトヲ沙汰スト云

去

十一月大

○七日 佐久間河内守政実享年五十六歳ニ卒ス

○十五日 恒岡源兵衛資久始テ台徳公、并謁ス 同九年ヨ

將軍家

○十九日 濃州揖斐ノ城主西尾豊後守光教享年七十三

歳ニ卒ス嗣子無キニ依テ外孫三人ノ家督ヲ配分ス

○廿九日 織田内府信雄入道常真ノ子勝法師信良後五位下侍従兼兵部大輔ニ任叙ス

十二月

○十二日 別所孫次郎友治新宅ノ風呂ニ始テ浴セシト

欲、伊東掃部助治時桑山左衛門佐一晴等ヲ招テ饗應ス

桑山ハ今宵叔父佐久間大膳亮勝之カ娘嫁娶ノ事アルユ

ハ申ノ刻ニ暇ヲ告テ歸ラシメテ孫次郎頻ニ袖ヲ

扣ハ婚禮ノ刻限暫ク間アラシメテ酒ヲ勸メ歎

及テ伊東別所甚々乱醉ニ至ル桑山ハ彼故障アルユハ慎

テ沉醉ニ至ス別所友治妄ニ謂テ曰今年蟬丹後守松倉豊

後守ニ大坂ノ戦功ヲ賞シ領知ヲ轉シ穀高増封テリ松倉

カ如テ怯弱ノ者両度ニ四万石加恩アル上ハ友治カ如キ

忠勇ノ士ニハ十万石ヲ賜ヘテ可也ト罵ル伊東掃部介

ハ松倉カ朋友ナレハ是ヲ聞キ堪テ友治乱醉ニハカ武夫

ノ道ヲ忘レ悪言也予豊後守非ハ芝蘭ノ好テ非知テ出

ヘルハ予ニ對テ大ニ禮ヲ背ト雖此席ハ狂言ニテ黙止

スハ此来此詞不聞ハ堪忍スカテ不云々別所笑テ

臆病第一ノ松倉カ朋友タラシカテ志モ察スハ類聚以

テ聚テ云々不覺田沙モ豊後守同然テ臆病ナルハ云々

内務省

マ伊東惣三堪公別所カ頭ヲ扇田以テ是以打ケレハ孫次
 郎九寸五分ノ小股指ヲ拔テ忽チ掃部介ヲ突ク時桑山
 左衛門佐三人ノ間に入り孫次郎ヲ押留ル内ニ駒江在リ
 ル小童小股指ヲ拔テ掃部介ヲ後ヨリ斬ル左衛門佐又彼
 小童ヲ抑シテ是レ處ニ孫次郎カ子孫之丞并家僕數十人
 群参メ伊東ヲ斬殺ス掃部介後首玄関ヨリ乱入セシメ又
 ル處ニ左衛門佐右ノ指ヲ割テ被ノカラ馳出テ闘争終
 リ伊東ハ恙ナシ汝等乱入セバ主ノ身危カラレシ則止ス
 佐久間大膳亮勝之忽チ馳来テ左衛門佐ニ始終ノ事ヲ聞
 届ケ奉行ノ宅ニ赴テ是ヲ達シ掃部介カ親族等別所ノ桑
 山心ヲ合テ伊東ヲ切害スルノ由ヲ訴ケシハ則チ上聴
 ニ及テ其夜大膳亮ニ御使番野々村四郎右衛門ヲ添派檢
 使トシ其夜ニ別所ニ死ヲ賜フ別所伊東カ子各放逐セラ

一桑山ハ整居ス或ハ伊東カ一族桑山セ別所ニ子レ伊東
 ヲ斬シムル由ヲ訴ト雖モ虚妄ナルユハ桑山罪ヲ道レ彼
 掃部介ハ金法印素玄カ実子ニメ伊東氏ヲ相續ス
 ○十八日野洲島山ノ城主成田左衛門佐長忠卒ス其長子
 新十郎長邦先達テ歿シ嫡孫新五郎房長在リト雖モ僅カ
 ニ歳タルユハ長忠ニ次男左馬介氏宗ヲ以テ家督トシ鳥
 山ノ城地ヲ賜リ房長十五歳マテ是ヲ輔メ公務ヲ執スハ
 キ旨命セラレ按スルニ元和八年壬戌左馬介氏宗早世
 シ故アリテ其遺領ヲ没収セラレ時ニ新五郎房長嘆訴ス
 下雖モ御許容ナク遂ニ成田ノ家断絶ス
 ○廿六日仙臺参議政宗ノ子越前守忠宗侍從ニ任テ京
 極丹後守高知カ長男高廣諸大夫ニ任セラレハキ旨
 願ヒ請テ雖モ台慮ニ諸大夫ニハ是ヲ願フト雖モ不_レ是

所存スヘキカシ由命テツテ高家ルユハ御諱
 字ヲ賜リ忠高ト改メ彼五條下ニ叙シ直ニ侍從ト任ズ
 ○是月尾張族義直卿当四月以後一旦歸國ナリテ又駿
 州ニ至リ久能山ノ神廟ニ詣リ武江ニ参勤セラル處今
 以テ居館ナキユハ本多美濃守忠政カ宅ヲ借テ暫ク住シ
 玉ノ駿河侯頼宣卿ハ則チ神君御在世ノ時駿河遠江ニ
 於テ五十二万石ヲ封セラレシユハ則チ駿河府中ノ居城
 上レ王ヒ同ク東武ニ参勤セラレ是亦居館ナキユハ西丸
 下或屋形ヲ借テ是ニ暫ク住シ玉ノ遂ニ兩卿ノ北ノ丸ニ
 宅地ヲ授ラセラルユハ嘗作メ是ニ移リ玉ノ
 補ニ江戸^{半跡}御城内吹上御門ノ外当代月光院殿御館ノ
 外ハ元來尾州家ノ上屋敷也同扇柏荷ノ邊小元來水戸
 家ノ上屋敷也同徳川右衛門督殿御館ノ地ハ元來紀州

家ノ上屋敷ナリ是ハ元和以來明曆ノ大火ノ比マテ斯
 斯ノ如シ大火以後ハ当時ノ如ク右御三家各御城外
 二上屋敷ヲ移サセラルト也
 ○是年北條出羽守氏重相州甘繩ノ城ヲ攻メ遠州久野
 ノ邑ヲ賜テ穀高元ノ如ト云々木下宮内少輔利房備中賀
 陽郡足守二万五千石ヲ賜フ^{其高増}
 ○永井日向守尚清去夏ノ戦功ニ依テ武州葛蒲江州滋賀
 二放テ五千石ヲ賜フ^{是日領ス先千}
 ○前田大和守利孝ニ上州七日市場一万石ヲ賜フ
 ○久永源兵衛重頼坂部三太郎廣勝ニ^{総州結城}二千石宛
 ヲ加メ賜フ千石ヲ水野三左衛門元綱^{後備後守}七百石宛
 酒井大膳勝吉又摂州瀬川村鹿垣付ニテ五百石ヲ喜多見
 五郎左衛門晴重ニ加恩アリ舊領併テ千石ヲ領シ江州一

國々奉行下成下云々思、
 ○御使番兼松源兵衛正成ヲ尾州義直卿ニ付属セテ其
 父修理亮正吉往年ヨリ彼卿ニ勤仕ス是レ因テ正吉カ家
 督ヲ源兵衛相續ク其取来レ七百石ヲハ源兵衛カ長男又
 四郎正尾ニ譲リ正尾ヲ以テ大猷公ニ仕シムルト云々
 ○松平隠岐守定勝カ五男定房ニ後美濃守
 六年 將軍家 御主七郎三巖ニ後十兵衛
 二附屬ス 柳生七郎三巖ニ改ム 北條新藏氏長
 于時六歳北條新左上屋辰之助數直ニ仕ス氏部少輔忠直
 衛門繁廣カ孤子也 台徳公ニ拜謁ス
 男カ三 等幼稚ニメ始テ 台徳公ニ拜謁ス
 ○宗義成江戸ニ参府シ 台頭ヲ并謁シ七父義智カ跡職
 ヲ襲テ對馬守ト称スヘキ旨 鈞命アリ且ツ役四位下ニ
 叙シ侍役ニ任ス
 ○新庄越前守好俊御奏者番ト成ル

○谷出羽守衛友御咄衆ト成レ三宅惣右衛門康信
 子佐久間在兵衛勝年 大膳亮勝之子後 関兵衛氏盛 長門守
 子実ハ男 役五位下ニ叙ス康信ハ越後守ニ任シ勝年ハ信
 濃守ニ任シ氏盛ハ安藝守ニ任ス
 ○安倍弥十郎信盛御書院番組頭ト成リ御使頭ヲ兼役ス
 松平志摩守重成御使頭ト成リ天野小三郎長信 後豊前守
 御納戸頭ト成ル
 ○寛勘右衛門元成享年六十歳ニ卒ス元成初金平ト
 称シ長久寺ヲ役得功アリ是人ハ 廣忠君カ密旨ニ依テ
 松平三右衛門忠倫ヲ害セシ平三郎重成 後勘右衛門カ嫡子
 也
 補其年酒井大膳亮勝吉始テ 台徳公ヲ拜謁シ食邑
 七百石ヲ賜ヒ大久保四郎左衛門忠成 後滋藩頭 御書院

番組頭成ル水野元綱後備後守米地千石賜松

平志摩守重成御後頭成ル天野長信後備前守御納忠

頭成ル喜多見半三郎重恒下總國ニ於テ米地三百石

賜ル谷出羽守衛友御咄令衆列ニ如ル

補同上神君以御遺言タルノ由ニテ台徳公ノ命ニ依

テ滝川豊前守忠往ハ参議中將義直卿ニ属ス外孫子三

右衛門直政ヲ養子トス同八年ヨリ直政ハ公ニ奉仕

補同上神君薨去ノ後駿府城ニ在ル所ノ御財宝及諸器

ヲ以テ参議義直参議頼宣少将頼房ノ三卿ニ分テ賜ル

此内金銀数万兩ハ駿州久能山ノ倉庫ニ納ラレ本多上

野介正統ノ台命ヲ奉テ江戸ヨリ駿府ニ赴テ是ヲ沙汰

ス

補同上山田清大夫重次門奈助左衛門宗勝兩人ハ伏見奉

行ト成ル此兩人共ニ元和七年ヨリ駿府町奉行ト成ル

補同上此年ヨリ駿州久能 東照大権現ノ御本社拜殿本

地堂神樂堂御供所樓門鳥居等御建立有リ参議中將頼

宣卿造營ノ事ノ勤メ玉ヘリ



Vertical columns of faint text, likely bleed-through from the reverse side of the page.



明治九年三月

松田丈一郎
田邨常次 校



伊孫岩

國語

伊孫岩
伊孫岩

